

# 村のがまだしモン

No.15

村で頑張っている若者を  
紹介します

後藤 彰久さん (43歳)

中松3区在住

今年8月に、村内で土木・水道工事会社「旬三水」を起こした後藤さん。彼は移住者ではなく生粋の村民で、消防団活動や地域活動には欠かせない存在。現在、奥様小学生と保育園に通う2人の息子さん、お母さんと妹さんも同居の6人家族。

起業前は、大津町にある会社に勤務。安定した会社を早期退職し、独立起業したきっかけは？の問いに、「傷ついた故郷の復旧、復興に少しでも役立ちたかった」と即答。異業種からの土木会社立ち上げには、資格取得や現場経験の蓄積等、ご苦労も多かったようです。

現在は、人手不足で進まない個人宅や農地の復旧に、日々、汗を流しておられます。将来の夢は？の質問には、「丁寧な仕事を積み重ねて、お客様から信頼される会社になりたい。一人でも多く従業員を雇用できるように早く体力をつけたい」と力強く答える姿に、期待と好感が持てました。

故郷を思い、リスクを冒して起業した次世代を支援できる村にしなければなりません。そして、彼のようなチャレンジャーがもっと増えれば、村の復興は加速します。今後、地域のリーダーとしても期待される後藤さんでした。

(取材者／太田吉浩委員)



重機を操る姿も様になってきました

吉永 勝寿さん (37歳)・千尋さん (37歳)

安寿ちゃん (2歳) 第七駐在区

勝寿さんは大津町生まれ、仕事は車の整備、千尋さんは、大阪出身。宮崎県にサーフィンに来た時に知り合われ、平成19年にご結婚され、平成21年に南阿蘇村に移住。

村に移住を考えたきっかけは、仕事で本村に来て、壮大な景色を見た時。

平成25年には千尋さんのご両親も同じ敷地に家を建てられ、移住されました。その後、娘さんが誕生。この村に住んでの感想は、「景色がよく、子どもを育てる環境がいい」、また、「地域の人たちとの交流も楽しく暮らしやすい」と話されていました。

吉永さんは、熊本地震後に第6駐在区で自動車整備工場を経営、今後の工場経営について聞くと、「現在の自動車、バイク、農機具の修理や溶接に限らず、お客様からの様々なご要望にお応えできる店を目指します」との事。今後、吉永オートが大きく飛躍し雇用が生まれることを期待したいと思います。

(取材者／栃原辰郎委員)



機械の整備はお任せを

## 編集後記

今年の冬は、何度も大寒波に襲われ、夏には危険なほどの猛暑日が続き、大雨台風、地震と日本全国で、いや世界中の至るところで自然災害の猛威に見舞われました。

日頃からの備えは、幾重にしても過ぎることはありません。

そんな中、今年の彼岸も道の土手や畔道には彼岸花がいつもどおり咲き誇っていました。

熊本地震から2年半が過ぎました。以前の平穏な日々が懐かしい今日この頃です。

村民の皆様、季節柄、体調には十分ご注意ください。丸野健一郎

### 議会広報特別委員会

- 委員長 丸野健一郎
- 副委員長 太田吉浩
- 委員 笠野眞喜
- 委員 今村竜喜
- 委員 今村辰郎
- 委員 今村輝宏

### 発行責任者

議長 荒牧俊一